

チェックリスト

コンプライアンス実行のあらゆる面において心に留めておくべきパーキンソン氏 (C. Northcote Parkinson) の名言があります。

「仕事というものは、その仕事の完了までに使える時間を使いきるまで続きます。」

正しく使えばチェックリストは、**GPL** コンプライアンス作業を、迅速に、一様に、さらに効率的に行う有用な手法となりえます。しかし、間違った使い方をするとチェックリストは、現場の作業をカバーするにはあまりに一般的なものにも、あるいは、終わりのないレビューを要求するとんでもない作業リストにもなりえます。程よい中庸こそがゴールです。程よい中庸として何を採るかは、組織の規模に依存します。

掲載する「総括的コンプライアンス チェックリスト」は、簡潔で簡易なチェックリストです。これは、「**OpenChain** カリキュラム」¹ の資料に掲載されているものですが、**Linux Foundation** の **Open Compliance Program** 「自己診断コンプライアンスチェックリスト」² の一部を使っています。このチェックリストは、小規模な組織で利用するのに、あるいは、大規模な組織における全般的な課題の抽出に適しています。

状況によっては、特定のコンプライアンス目標を意図して、より特定のなチェックリストを作成することもあるでしょう。例えば、頒布物の「全対応ソースコード」を準備する作業は、おそらく特定用途チェックリストを適用するときに最初に思いつく、また、最も有用な領域でしょう。この課題への取り組みとして、可能な、また、必要なすべての手段を網羅したリストを作るのは一つの方法です。別の方法として、課題の「中核部分」のみをカバーして、詳細は必要に応じて訓練を受けた要員や、あるいは、サブチェックリストに委ねるやり方もあります。「製品 X の再ビルドに向けたチェックリスト」は、後者の例です。

もっと包括的なチェックリストを作ろうとすると、非常に多くのオプションがあるものです。スタート地点として優れているのは、**Open Compliance Program** の「自己診断コンプライアンスチェックリスト」です。同チェックリストは、コンプライアンスプロセス全体にわたるより詳細な点検項目を網羅しており、大きな組織で必要とされるものでしょう。このチェックリストは、上記の資料と同様、無償で自由に利用できますので、何が組織の要件に一番合致するのかを探るのに使えます。

¹ <https://www.openchainproject.org/curriculum>

² <https://www.linuxfoundation.org/projects/opencompliance/self-assessment-compliance-checklist>

総括的コンプライアンス チェックリスト

ステップ #1: 継続的なコンプライアンス業務

- すべての FOSS を購買・開発サイクルの早期段階で見つけること。
- 使用するすべての FOSS パッケージをレビューし、承認すること。
- FOSS の義務を満たすために必要な情報を検証すること。
- 外部の FOSS プロジェクトへの貢献をレビューし、承認すること。

ステップ #2: コンプライアンス活動を支える要件

- 十分なコンプライアンス要員を確保し、責任系統を明示すること。
- FOSS コンプライアンスプログラムを支えるために既存のビジネスプロセスを適合させること。
- すべての要員に FOSS ポリシーのトレーニングを行うこと。
- すべてのコンプライアンス活動の進捗を追跡すること。

製品 X の再ビルドに向けたチェックリスト

このチェックリストは、GPL コードを含んだ製品の頒布の際に、「全対応ソースコード」を確実に提供するためのレビュープロセスの一部となりえるものです。

ステップ #1

- ☐ ビルド環境の完全な内容記述が用意されているか？
(これには、コンプライアンスを確実に履行するために必須のパッケージの版数や類似の情報が含まれるべきです。)

ステップ #2

- ☐ 再ビルドのステップの一覧は用意されているか？

ステップ #3

- ☐ 再ビルドは、余分なソフトウェアなどのないクリーンなコンピュータシステム上で、エラーなしに完了したか？

ステップ #4

- ☐ 再ビルドの結果は検証されたか？

ステップ #5

- ☐ 不確かな点は、オープンソースサポートチームに対してエスカレートされたか？

訳者ノート

本文書の原文は、The Linux Foundation が出版した”[Practical GPL Compliance](#) (by Shane Coughlan and Armijn Hemel)”より抜粋されたものです。

日本語訳、および、レビューは The Linux Foundation Japan にて活動するボランティア翻訳プロジェクトチームが担当しました。The Linux Foundation は、翻訳の正確性・妥当性に責任を負うものではありません。

本翻訳文書は、The Linux Foundation の承諾により、**Commons (CC-0)**の下に広く自由に利用できます。

内容、翻訳について、ご意見、修正案などは以下に電子メールしてください。

Lfj-trans(@)lists.linuxfoundation.org